

「特許戦争 2015」参加報告書

ジェトロソウル事務所 知財チーム

韓国特許庁と電子新聞は、2011年から「特許戦争」セミナーを開催しています。昨年の「特許戦争」セミナーがサムスン・アップルの紛争、NPEからの提訴等が頻発する中、「戦争」で生き残る方策を考察するセミナーだったのに対し、今年は、韓国政府が核心政策と掲げている「創造経済」、また、そのための方法として提案されている、大・中小企業間の「特許共有」をテーマとして開催されました。ジェトロソウル事務所も参加しましたので、現代自動車の特許共有、LGと連携している忠北創造経済革新センターの知財支援内容を中心にセミナーの概要をご紹介します。

1. 日時：2015. 7. 9. (木) 10:00～17:00

2. 場所：中小企業中央会 グランドホール

3. 主催：特許庁、電子新聞 / 主管：韓国知識財産保護協会

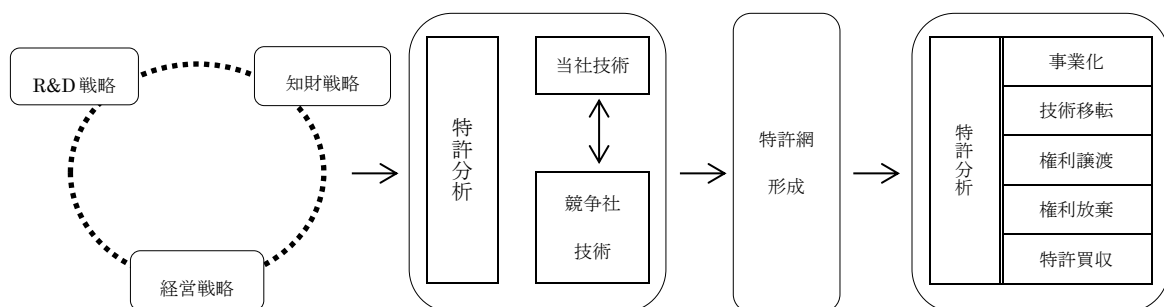
4. 概要

4.1. 特許共有を通じた、大・中・小企業の相生協力システムの構築戦略

—現代自動車 チェ・ジュンシク チーム長

①現代自動車のIP経営

現代自動車（以下、「現代」）は、競争社（戦略的提携・事業化）、先発企業（牽制被害の最小化）、顧客（認知度の向上）を考慮した総合的なIP経営体制を構築しており、Car Life全般にかけて差別化された新概念技術・使用・サービスを創出している。また、現代は、ただの知財権を権利取得の対象ではなく、経営戦略の要素として活用している。その例が「優秀特許開発協議会」であり、この協議会を通じて知財権を創出、管理、活用を用いて企業の経営利益創出に寄与している。



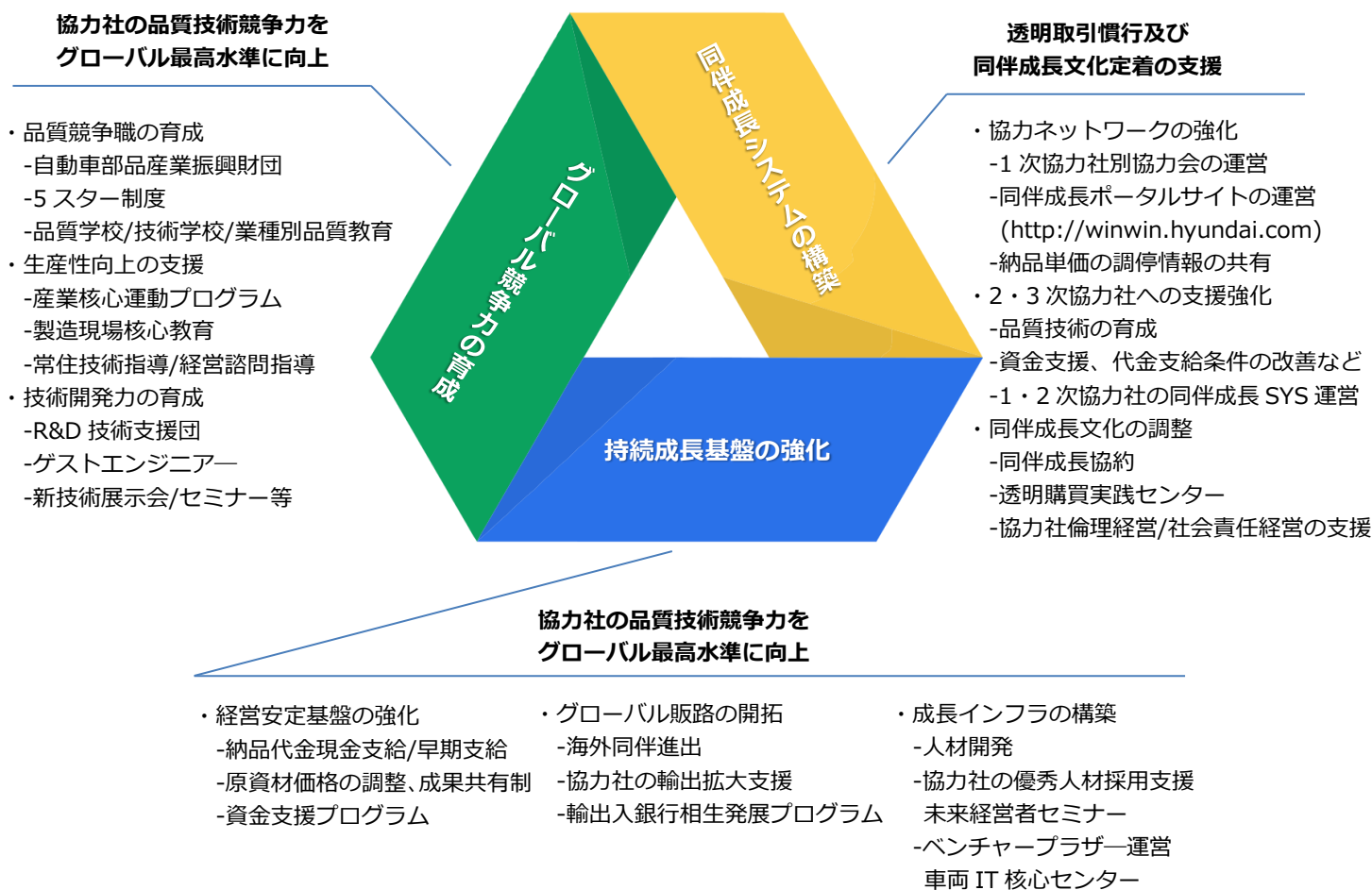
ここで、現代の知的財産チームは、創出・管理・活用の業務に加え、R&D 戦略樹立時、提言

する役割も担当している。

② 同伴成長推進の現状

企業間の競争は、部品社を含む企業郡間の競争と言える。自動車業界の場合、総部品の95%以上を協力会社から購買しており、その会社は、部品開発から生産、A/Sまで15~20年以上の長期にわたって品質を維持する必要がある。部品の品質が完成車の品質を決定づけると言っても過言ではない。また、協力会社の役割は単純製造から、設計、生産、新技術開発等、役割が増大しており、研究技術力を保有しないと生きていけない時代となった。つまり、部品協力社との同伴成長が完成車メーカーの競争力の源泉といえる。そこで、現代は協力会社との同伴成長のために努力をつくしている。

現代は、1次部品協力社（約300社）、2,3次部品協力社（約5,000社）、一般購買協力社（約3,000社）に対し、自動車部品産業振興財団、R&D技術支援団、相生協力推進団といった専門組織を通じて支援を行っている。現代の同伴成長推進戦略は、以下のとおり。



③ 協力会社の技術保護

現代は、協力会社の技術を保護するために、i)特許共同出願、ii)技術資料任置制度、iii)特許出願支援を実施している。現在、中小・堅企業との共同出願は139件であり、出願及び維持のた

めに 9.9 億ウォン/年を支払っている。また、(株)東宝の BSM 関連技術等、5 社の 6 件の技術に対し、技術資料を任置しており、費用全額は現代が負担している。また、協力会社に対し、特許教育を行うとともに、特許出願費用の節減も支援している。

その他に、韓国産業技術振興院を通じて、中小・堅企業に無償で移転している。

区分	特許分かち合い	特許寄付採納
方式	KIAT に委託して中小企業に無償実施を許与	政府に帰属させ、収益が発生した場合、当社に一定費用を支払う
所有権	現代自動車	政府
特許維持料	現代支払	維持料の免除
対象選別	障害者関連特許 3 件	毎月未活用予想特許 (約 100 件)

今年 1 月開所した「光州経済革新センター」は、現代自動車の主導で、国民のアイデアを基盤とし、自動車産業の創業を活性化するとともに、水素燃料電池技術を拡散することハブの役割を担う組織である。



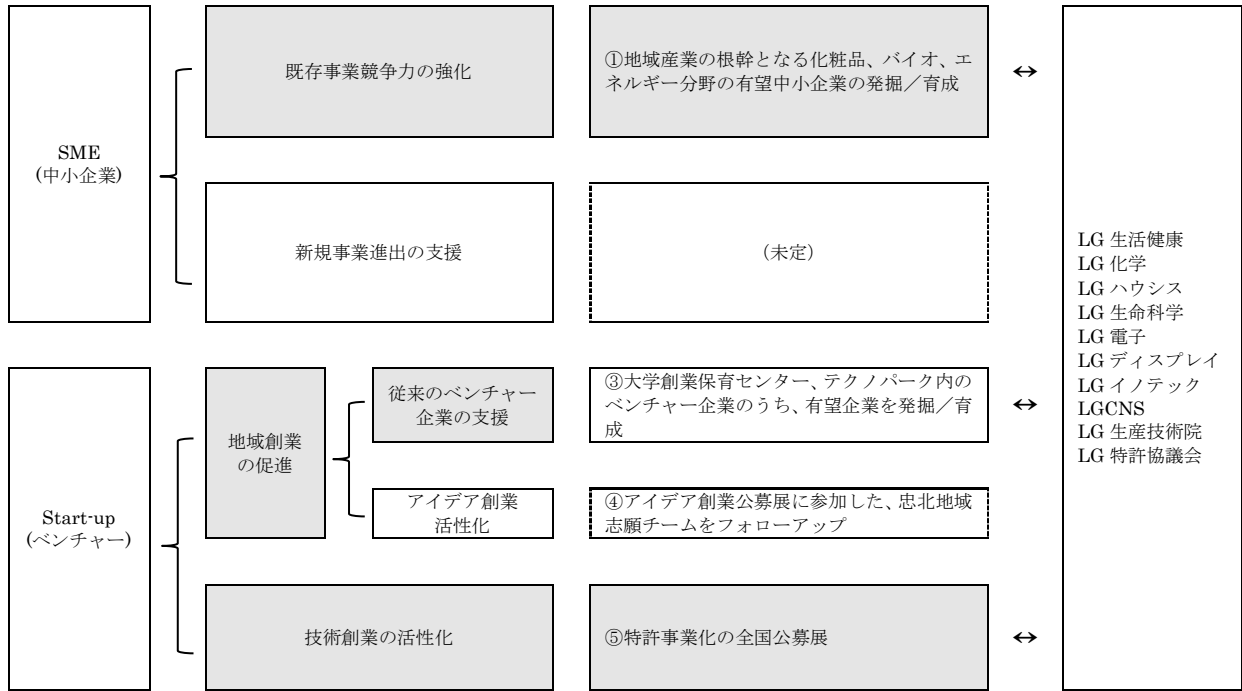
4.2. 2015 年創造経済革新センターの活動方向及び特許サポートゾーンの運営

一忠北創造経済革新センター ユン・ジュンウォン センター長

「創造経済革新センター」は、大企業のバリューチェーンを地域産業環境に結びつけ、質の高い働き口の創出に寄与するために作られた組織である。そこで忠北創造経済革新センター（以下、

「忠北センター」は、LG グループと連携し、バイオ、エネルギー、化粧品等の分野における有望中小企業発掘、スタートアップ企業の支援を行っている。現在は、成果が予想される領域である、i)既存事業競争力の強化、ii)地域創業促進、iii)技術創業の活性化に優先順位をつけて活動を展開している。

＜革新センターの事業構造＞



＜重点推進課題及び成果目標＞

忠北センターは、Star SME／Start-Up 企業の 138 社を発掘・育成し、そのうち、38 社を「強小企業」として育成することを 2015~2017 年の目標としている。

	ビューティ	バイオ	エネルギー	ICT	成果目標
中小企業特化プロジェクト	①K-Beauty のグローバル化	②バイオベンチャー環境の活性化	③エコエネルギー産業の育成 (ゼロエネルギー)	ICT 融合サービス	Star SME 発掘及び育成 (50 社育成⇒ 20 社の強小企業)
創造基盤システムの助成	④特許サポートゾーンの運営 (LG 特許共有)				Start-Up の活性化 (80 社育成⇒ 10 社の強小企業)
	⑤生産技術サポートゾーンの運営 (LG 生産技術共有)				
	⑥地域創業育成基盤の構築 (LG アイデアマーケットの共有)				
地域創造経済協議会の運営	⑦地域核心力量の結集のための Key Initiatives の展開				地域拠点革新期間との協力

<中小・ベンチャー企業の育成現状>

中小企業特化プロジェクトを担当するそれぞれの LG グループ傘下企業がパイロットで支援対象企業と革新テーマを設定し、去る 4 月から優先的に着手することから開始した。

		現在まで発掘/育成した企業数		7~9 月に追加発掘	
		SME	Start-Up	SME	Start-Up
①K-ビューティのグローバル化	LG 生活健康	7 (化粧品原料)			
②バイオベンチャー環境の活性化	LG 生命科学	1 (バイオ)			5
③エコエネルギー産業の育成	LG 化学	8			
	LG ハウシス	5			
④特許サポートゾーン※の運営	LG 電子	2	} 特許提供及び 事業競争力強化	10	10
	LG イノテック	1			
	LG 生活健康	1			
	LG 化学	1			
⑤生産技術サポートゾーンの運営	LG 電子	5	1		5
⑥地域創業育成基盤の構築	発掘後 LG をマッチング		13		10
		31	14		30
		合計 45 社		追加 45 社	

※特許サポートゾーン

特許サポートゾーンは、創造基盤環境助成のために、担当企業等の特許を公開すると共に、技術創業・特許事業化まで支援を図るサービスである。これのために、LG グループ及び政府出せん研究所は、それぞれ約 52,000 件（有償 47,000 件、無償 5,000 件）、1,600 件（全部有償）の特許を公開し、LG の特許専門家 1 名を常住させる他、弁理士を含めた LG の特許専門家 3 名を短期託すフォース形態で支援している。また、特許庁からも 1 名採用し、7 月中に合流する予定である。

特許サポートゾーンのプログラムとして、i) 「特許 One-to-One Care」と ii) 「特許事業化」全国公募展がある。「特許 One-to-One Care」は、有望な地域の中小企業を発掘し、「基本相談⇒現場技術診断⇒特許支援条件の導出⇒特許権利化/紛争対応の追加需要の発掘」のフローで支援をするプログラムである。

	1 次支援対象企業 (LG 発掘)	2 次支援対象企業 (忠北知財センター、中小企業庁、INNO-BIZ、テクノパーク、忠北道庁等)
実績	<ul style="list-style-type: none"> 支援対象企業：25 社 現場診断実施完了：25 社 特許提供及び権利化支援完了：12 社 	<ul style="list-style-type: none"> 支援対象企業：7 社社 現場診断実施完了：25 社 特許提供及び権利化支援完了：12 社
内容	<ul style="list-style-type: none"> 特許提供：7 社 特許権利化支援：5 社 	<ul style="list-style-type: none"> 特許提供：5 社 特許支援：7 社

<「特許 One-to-One Care」を通じた事業予想成果>

支援企業	特許支援内容	予想成果
Nara M Tech Co.,Ltd.	- 電池パッケース関連特許7件を無償提供	- 電池パッケース関連売上が増加（前年対比50%増予想）
Alphacryptec	- 白朮、冬虫夏草等に含まれた物質特許5件を無償提供	- 前年と比べ、売上20%増加を予想（中国の展示会参加）
Im-tech	- 無線充電及びアンテナ関連特許51件を提供 - 新製品メタルアンテナの特許戦略樹立及び海外出願の強化	- 前年対比、売上50%増加予想
MCK	- 特許紛争予防：練磨パッドの競争企業の特許分析及び顧客社の対応	- 15年練磨パッドの日本及び中国への輸出を予想
Seil Hi-tech Co.,Ltd.	- BLU 反射板及びスウェリングテープ等、11件の特許を無償提供 - LG 提供特許を基礎とし、独自特許を国内出願	- スウェリングテープ等関連製品の売上増加を予想 - <u>海外特許網を形成（米、中）</u> ↳ LG から支援

特許サポートゾーン開始後、予想より申請が少なかった。R&D リソースを持っている中堅企業は使用料の交渉にかけてくる等、積極的にセンターを訪問したが、ベンチャーや小企業の場合は、検討する余裕すらないのに気付いた。そこで、サービスの発信に重点を置いて、LG 特許協議会と協力し、4月から地域の企業に訪問し、「特許 One-to-One Care」サービスを説明している。

<特許事業化全国公募展>

忠北センターでは、韓国の中小・ベンチャー企業、国民を対象に、電機電子・ICT融合、ビューティー・生活健康、化学・エネルギーの分野で、①志願者が保有した登録/出願特許、②LG及び政府出せん研究所が有・無償で提供している特許、又は①と②の組み合わせの特許を利用し、事業化モデルを公募する「特許事業化全国公募展」を実施している。本選進出20チームには、賞金各100万ウォンの授与及び公募展以降事業化支援を検討し、本選上位10チームには、賞金各1,000万ウォン及び事業化支援を優先検討する。また、上位10チームはLG事業と連携、IPコンサルティング等、LGのインフラを積極活用することができ、特許権利化時、最大2,000万ウォンの必要資金を支援する。

受付結果、電機電子/ICT融合が122件、ビューティー・生活健康が66件、化学・エネルギーが46件で合計234件の応募があった。

（ジェットロ注：その後の忠北センターの発表及びマスコミの報道によると、7月21日に20チームを選定し、7月29~30日プレゼンテーション審査を行い、8月4日付で上位10社を選定しました。選定されたアイデアは、肌のしわ改善及び老化防止に効果のある減量「ステビオル」製造特許、無停電供給装置（UPS）、磁石の性質を利用して外部衝撃と振動にも外れないボルトとナ

ット等ということです)

上記のような忠北センターが行っている支援を拡大させ、ワンストップで知財を支援する国家レベルでの IP-Hub を構築し、体系的に支援することで、韓国の有望なベンチャー・中小企業を育成するのは、創造経済実現につながる道の一つになると考える。

以上